



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療か在宅医療まで「人を診る総合診療を目指す」の連載が「平成臨終図巻」として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

1度見たら忘れられない個性的な御顔立ち、時代劇からコメディまで、味のある役をこなされていた名バイプレーヤー。俳優の斎藤洋介さんが、9月19日に都内の病院で亡くなりました。享年69。死因は、咽頭がんとの発表です。

少し前からお痩せになられた印象がありました。事務所の発表によれば、斎藤さんは今年の7月初旬に、インプラント検査を受けたときに、歯科医から咽頭がんの疑いを指摘されています。喉にできる咽頭がんは、実は、歯医者さんで見つかることがよくあります。その後、斎藤さんはすぐに摘出手術を受けていたそうです。

「突然死」という言葉がしっくりくる

174 俳優 斎藤洋介



上咽頭がんの場合は、中耳炎や鼻血などが起きます。できた場所によっては視力低下や、顔面の感覚障害、リンパ節に転移しやすいため、首にしこりがで

きてから気がつく人もいます。中咽頭、下咽頭がんの場合は、飲み込むときの違和感や喉の痛み、舌を動かすづらい、口を大きく開けにくいという症状です。さらに、声がかすれてきたり、吐血する場合も。心あたりがある場合は、すぐに耳鼻咽喉科で検査を受けてください。また、50〜60代の男性に多く見られることもこのがんの特徴です。

斎藤さんは摘出手術後、再発を防ぐための放射線治療を始め、たばかりでした。がんのステージは発表されていませんが、少

なくとも、もう手の施しようがない末期の状態だったというわけではなさそうです。死の前日には、事務所の人と会って仕事の打ち合わせをし、当日、自宅で奥様と夕食を取った後に体調不良を訴えて、緊急搬送されましたが、搬送中に心肺停止となってしまいました。ですから、咽頭がんで亡くなったというよりも、どちらかといえば「突然死」という言葉の方がしっくりくるかもしれませぬ。ご家族はもちろん、また60代だった斎藤さんご本人も、死についてシミュレーションする段階ではなかったはず。

しかし、考え方によっては、直前まで家族と食事を楽しんでるわけですから「がんだけどピンピンコロリ」とも言えます。このように、がん患者さんの最期といっても、その姿は実にさまざまです。終末期を過度に恐れるよりも、自然体で日々、小さな楽しみを見つけて笑って過ごしてほしいと願います。